

実技試験に 135 人が挑戦

30 年度後期・鉄筋組立て技能検定

組合は 2 月 9 日～11 日の三日間、東大阪市の大阪府立東大阪高等職業技術専門校で平成 30 年度後期・「鉄筋組立て技能検定実技試験」を実施しました。この試験は大阪府職業能力開発協会からの委託を受けて組合が実施しているもので、今年度は三日間で 1 級 113 人、2 級 11 人、3 級 11 人の合計 135 人が挑戦しました。合格発表は 1 月 20 日に行われた施工図作成試験の結果と同じく 3 月 15 日となっています。

受検資格は 1 級が 7 年以上、2 級が同 2 年以上などで、試験内容はいずれも曲げ加工された鉄筋を用いて、基礎・柱・梁の取合い部の組立てを行うもの。試験の標準時間は 1 級が 1 時間 40 分（延長 30 分）、2 級が 1 時間 20 分（同 20 分）、3 級が 1 時間 30 分（同 20 分）で、標準時間を超えた場合は時間に応じて減点されます。

試験では、首席検定委員の戸田副理事長をはじめ 12 人の検定委員と 10 人の補佐委員が班ごとに分かれ、組み上がった鉄筋の配筋精度などを厳しくチェックしていました。戸田首席検定委員は「昨年と比べ 1 級の受検者は減少したが、2 級の受検者が増えたのは明るい材料であり、全員が合格してもらいたい」と話しました。

また、今回の実技試験には清水建設関西支店や鹿島関西支店の担当者も参観に訪れ、組立作業の様子を熱心に見学していました。



採点状況

